

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：54301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23061

研究課題名（和文）源氏物語の受容を中心とした食に対する意識の変遷に関する研究

研究課題名（英文）Study on change of the consciousness for the meal mainly on the reception of "The Tale of Genji"

研究代表者

荻田 みどり (Ogita, Midori)

舞鶴工業高等専門学校・その他部局等・准教授

研究者番号：20847644

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、『源氏物語』を中心として、受容史における食描写の変遷を辿ることと、食に対する人々の意識がどのように移り変わってきたかを解明するものである。

『源氏物語』は、当時の文化背景に基づき精緻に描かれ、千年にわたり多様な形で絶えず読み継がれてきた。『源氏物語』の注釈書や梗概書、絵画表象などの受容作品における食事描写のデータベースを作成し、分析することで、食に対する意識がどのように移り変わって来たか、さらに受容作品から翻って『源氏物語』等、平安朝文学作品における「食」の描写方法を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2024年大河ドラマ「光る君へ」において紫式部が主人公となり、平安時代の生活が注目されている。平安時代、食は文化として認識され儀礼と密接に関わるようになっていった。2013年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」の源流は、平安時代にあるといっても過言ではなかろう。その食を人々がどのように捉えていたかは、歴史書や記録類からはなかなか見出せず、登場人物の行動・心情が密接に関連する文学研究の視点をもってこそ解明し得るものである。さらに受容の面に広げることで、現代との連続性・分断性を見出すことができる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to elucidate how people's attitudes towards food have changed by tracing the changes in meal descriptions throughout the history of its reception, focusing on "The Tale of Genji".

"The Tale of Genji" was written in detail based on the cultural background of the time, and has been read and handed down in various forms for a thousand years. By creating and analyzing a database of descriptions of food in reception works such as commentaries, synopses, and pictorial representations of "The Tale of Genji", we were able to elucidate how attitudes towards food have changed over time, and furthermore, by turning from reception works to the methods of depicting food in Heian period literary works such as "The Tale of Genji".

研究分野：日本文学

キーワード：源氏物語 食 食文化 平安文学 中古文学 古注釈

## 1. 研究開始当初の背景

平安時代の人々がどのようなものをどのようにして食べていたかについては、主として歴史学・家政学の方面から研究されてきた。それにより、平安時代、食事が「文化」として花開き、今日に至る「和食」の食事様式や調理方法の源流を見出せることが示されてきた。

食を「文化」として考えたとき、その社会に所属する人々を抜きにしては語ることはできない。当時の人々が食に対し、どのような意識や価値観を持っていたかについては、ある事象に対し、どのように見られているかという登場人物や語り手の意思が表れる文学研究の視座が大いに手がかりとなる。

『源氏物語』は当時の文化観念に基づいた緻密な心情表現や情景描写によって完成度の高さが知られる上、千年にわたって絶えず読み継がれてきた。そのような当時の生活の一端を垣間見ることができる『源氏物語』において、衣食住のうち、食生活は衣・住に比べて描写が限定的である。しかし、だからこそ、敢えて描く・描かないを選択した意図が窺える。

これまでの研究において、『源氏物語』中の食事描写が限定的に見えながらも、主題に関わる事件や人間関係の近くに点在しており、物語展開を動かす糸口となっていることを読み解いてきた。これは、食事描写だけでなく、抽象描写、間接描写、「不食」表現など、様々なレベルで網羅的に食への意識を捉え、食が食事描写を含む前後の文脈、また、同時代資料を併せて考察することにより、見えてきたことである。

さらに、『源氏物語』を研究の中心に据えた上で、同時代的な視野、受容の観点を含め、包括的、通時的に物語世界とそこに生きる人々の食に対する描写とその取捨選択を読み解くことで、意識の部分までを捉えることが可能となると考えた。

## 2. 研究の目的

人が食に対し、どのような考えを持ち、その考えがどのように変化してきたか、食事に対する人々の意識の変遷をたどることが本研究の目的である。

これまでは『源氏物語』の作品内を中心とした食事描写を分析してきたため、本研究ではその周辺作品、さらに古注釈や梗概書、絵画等、受容作品にも焦点を当て、どのような意識の変化・差異が見られるかを分析した。『源氏物語』を起点とした食事描写の網羅的・体系的な考察をもとに、人々の食を文化として捉えた根底にある意識を探る。

## 3. 研究の方法

### (1) データベースの作成

『源氏物語』や同時代作品の食事描写に関するデータベースはこれまで作成してきた。本研究では、『源氏物語』の受容作品（古注釈、梗概書等）のデータベースを作成し、分析の基礎を形成した。

### (2) 描写の取捨選択を踏まえた分析

データベースを作成した上で、主に以下3つの着眼点によって分析・考察を行った。

〔着眼点1〕『源氏物語』本文での描写との差異

『源氏物語』本文の食事描写を受容作品の中でどのように表現しているか、また、『源氏物語』本文に描写がないにもかかわらず、受容の形態の中で食事が見えるものについて検討する。

〔着眼点2〕『源氏物語』における食事描写との差異と作品世界における傾向

『源氏物語』と近い時代の作品については、その物語作品の文脈においてどのように読み取れるか、どのような場面で描かれる傾向があるかを分析・考察した上で、『源氏物語』の食事描写の傾向と差異を確認する。ある程度考察が深められている『源氏物語』と対照させることで、当時の傾向や当該作品・『源氏物語』の特異性を見極めることができる。

〔着眼点3〕作品の執筆者や受容者の特徴から食事描写の傾向を検討する

受容された作品においては、その受容の特徴に食事描写の取捨選択の傾向が表れていないか確認する。

## 4. 研究成果

### (1) 受容の問題に関する研究 注釈態度の比較

本研究では、受容の方面では1本の論稿を執筆し（『河海抄』『花鳥余情』における「食」表現」（『寝覚物語研究会会報』(1)、pp.15-25、2021年3月））、また学内で講演を行った（『読み継がれてきた『源氏物語』』（『第47回学術情報センター講演会』2023年11月22日））。上記論

文については、『河海抄』と『花鳥余情』という、古注釈の中でも筆頭である二書について、食に関わる描写や注釈を切り口として、数量的観点から比較し、両書の注釈的特徴を読み解いた。これにより、これまで単純に指摘されてきた両書の注釈態度を裏付けるものとなり、食事描写を起点とした注釈の特徴を考察する有用性と計数的研究手法の新たな切り口を示した。

他の注釈書を含め、共通して注が示されているものや偏った傾向を持つものについての分析・考察は、今後さらに論文化を進めていく。

## (2) 『源氏物語』周辺の作品に関する研究

当初は受容の問題に重きをおいていたが、『『更級日記』鞍馬詣でにおける「野老」』、『源氏物語』の影響をめぐって』(『平安文学研究・衣笠編』(8)、pp.34-51、2019年10月)を皮切りに、『源氏物語』との影響関係にある作品における食事描写についてまとめておく必要性を感じ、その方面で論文化が進んだ。

上記論稿の執筆時期は助成決定以前であるが、『源氏物語』の影響を大いに受けた『更級日記』を『源氏物語』受容作品の一つと考えたとき、この作品の食事描写の傾向はその後の考察の視点を広げるものとなった。旅先での食事描写の多さは、同じ日記文学である『蜻蛉日記』との共通点を示しつつ、『源氏物語』の世界観と重ね合わせた上で、新しい価値観を創出するために、食事が効果的に用いられていたためである。

その上で、『『蜻蛉日記』物詣でにおける「食」』(『寝覚物語研究会会報』(3)、pp.5-16、2023年3月)では、『源氏物語』も影響を受けた『蜻蛉日記』の、特に繰り返される物詣の記事に食事描写が多くみられ、食事をとることが「生」に、食べないことが「死」に通じ、「食」と「不食」の変遷の中で夫である兼家との関係が変化していることを考察した。

『『篁物語』における「食」』 稲荷詣を端緒として』(『朱』(67)、pp.33-51、2024年3月)では、『源氏物語』成立との前後関係が諸説あり、同じく物詣記事の中で食事が描かれる『篁物語』における食事描写を分析・考察した。食事を供する行為が相手との信頼関係を結び、深める効果を発揮していることは『源氏物語』にも共通するものであり、日常性と安定性を持つことを提起した。

今後、『源氏物語』を中心とした食事描写に関する体系的・総合的な分析を行ってきたこれまでの成果を著書としてまとめ、出版を目指していく予定である。データベースについても整理し、著書の中にどのように掲載していくか検討していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 荻田みどり	4. 巻 3
2. 論文標題 『蜻蛉日記』物語における「食」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 寝覚物語研究会会報	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻田みどり	4. 巻 1
2. 論文標題 『河海抄』『花鳥余情』における「食」表現	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 寝覚物語研究会会報	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻田みどり	4. 巻 67
2. 論文標題 『簗物語』における「食」 稲荷詣を端緒として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 朱	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------